

埼玉の地域・都市連携軸を考える — 城址の地理的配置からの一考察 —

2024年11月

阿佐ヶ谷ビジネスカンファレンス 代表 薄井充裕

目次

はじめに	1
1. 城址の特色と2軸コントラスト	1
(1) Aグループ（軍事拠点型）の特色	3
(2) Bグループ（文治拠点型）の特色	4
2. 2軸の結節点としての川越	5
3. 城址からみた都市・地域連携軸形成の可能性	6
おわりに	7

はじめに

埼玉には100を超える城址がある。小稿では、全国的にみても埼玉を代表する7城址を取り上げ、2つのグループに分類したうえで地域・都市連携軸という視点から現代への若干の示唆を考えてみたい¹。

1. 城址の特色と2軸コントラスト

7城址（表1および図1）は2つのグループに分けることができる。Aグループは、大里郡および比企郡を中心に立地する戦国時代の城址群であり、1590（天正18）年豊臣秀吉による北条一族制圧・平定後、順次廃城となる。Aグループの城址は、郡部にあつて、その後の開発の波にさらされることから辛くもまぬがれ、いまでも往時の佇まいを良くとどめているものも多い。一方、Bグループは、その淵源は古いものもあるが、徳川時代、江戸の北の守りの城として整備され、その後文治拠点として重用されたもので、川越城、忍城がその代表である。

表1 主要な7城址の概要

分類/城址名	史跡	築城時代	形態	遺構など	標高(比高)	所在地
A 鉢形城①	国史跡	戦国	平山城	石垣, 土塁, 郭, 堀	119m (-)	大里郡寄居町
A 菅谷館②	国史跡	鎌倉～戦国	平城	土塁, 郭, 堀	60m (10m)	比企郡嵐山町
A 杉山城③	国史跡	戦国	丘城	土塁, 郭, 堀, 井戸	95m (40m)	比企郡嵐山町
A 小倉城④	国史跡	戦国	山城	石垣, 土塁, 郭, 堀	135m (70m)	比企郡ときがわ町
A 松山城⑤	国史跡	室町～戦国	丘城	土塁, 郭, 堀, 井戸	60m (40m)	比企郡吉見町
B 川越城⑥	県史跡	室町	平城	御殿, 土塁, 郭, 堀/御殿の一部移設		川越市
B 忍城⑦	県旧跡	室町	平城	土塁, 郭, 堀/御三階櫓外観復興		行田市

¹ 公益財団法人日本城郭協会「日本100名城」では、鉢形城と川越城の2つが、「続日本100名城」（同左）では、忍城、杉山城および菅谷館（比企城館跡群）の3つが取り上げられている。比企城館跡群は4城址から構成されることから松山城と小倉城を加えた7城址をここでの対象とする。

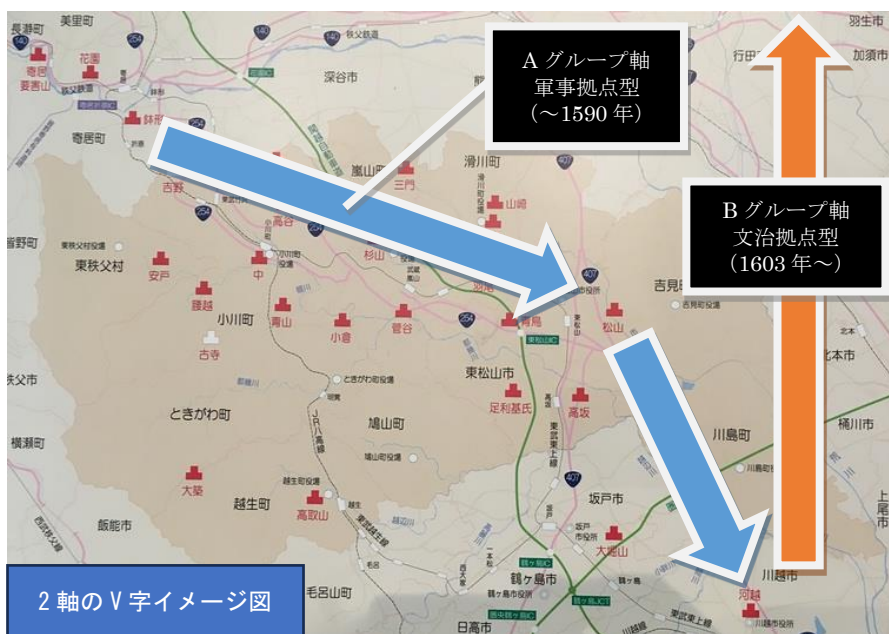


(出典)『境目の城 企画展 戦国の比企』(埼玉県立嵐山史跡の博物館 2020年)から作成

図1 主要な7城址の立地図

概観すれば、軍事拠点としてのAグループの城址は15世紀中頃から地元の有力豪族、武士団によって急速に築かれ、1590年以降、一斉に滅びる。この間の激動の戦国時代の出来事は約150年の時間のなかに凝縮されている。一方、文治拠点たるBグループについては、江戸時代、約250年をつうじて戦乱のない安定期となり、拠点となった集落は城下町、宿場町などに発展した。

図2で示すとおり、軍事拠点型Aグループの軸(地域軸)と、文治拠点型Bグループの軸(都市軸)はV字形に展開し、城といってもその機能は根本的に異なっている。なお、Aグループの軸は松山城でとどまるのではなく松山城～河越(川越)城に連担する。



(出典) 図1と同じ

図2 A、B両グループのコントラスト(2つの軸)

各々の地域の生活、経済・文化的特質は近世約 400 年の歴史のなか、日々の営為で引き継がれてきたことだろう。A グループの軸、鉢形城～松山城～川越城のベクトルは、県西北部から東南部にいたる襷のようなラインを示すが、これは、現在の国道 254 号線、関越自動車道、そして東武東上線に近接している。一方、B グループの城址は江戸時代初期に復活し新たな展開をみる。外敵の脅威が減じて武蔵国は江戸との一体化のもとにおかれるようになる。江戸、岩槻、川越、忍の各城が、南から北へ上行するかたちで再建された。ここでは軍事目的よりも文治拠点として重視され、江戸との往還もあり松平信綱によって、中山道の脇街道として整備された川越街道沿いなどの集落は商業都市、宿場町としても栄えることになる。江戸からの距離では、岩槻（9 里、約 35 km）、川越（13 里、約 50 km）、忍（15 里、約 60 km）であり各城を相互に結ぶ街道もあった²。



(出典) 埼玉県の広域交通ネットワーク <https://pasomate.sakura.ne.jp/s-koutuu.html>

<参考>現在の広域交通ネットワーク

(1) A グループ (軍事拠点型) の特色

A グループの軍事拠点型城址は、県西北部の大里郡および比企郡を中心に位置し豊富な集積をみている。鉢形城跡^①は、関東管領山内上杉氏、後北条氏の北関東支配の拠点の城で、荒川右岸断崖上の天然の要害地にある。指定面積約 24ha、空堀、土塁などが現存する。1590 (天正 18) 年秀吉の小田原攻めに際し開城、その後廃城となった。

比企城館跡群は、畠山重忠の居館跡と伝えられる菅谷館跡^② (嵐山町) のほか、杉山城跡^③ (嵐山町)、小倉城跡^④ (ときがわ町・嵐山町・小川町)、松山城跡^⑤ (吉見町) から構成されるが、総じて保存状態が良好な国の史跡であり、県内初の広域指定がなされている。

15～16 世紀にかけての戦国時代、このエリアは上杉氏や北条氏の戦乱の舞台になったが、加えて武蔵国と隣接する諸国からの侵入路であった。鉢形城については、上杉謙信 (越後)、

² 『中世の城館跡-埼玉県大里・北埼玉地方-』1989 年、『菅谷館の主 畠山重忠』2013 年、『国指定史跡比企城館跡群 菅谷館跡 (改版)』2020 年 (以上、埼玉県立嵐山史跡の博物館刊)、『鉢形城指南 (第 4 版)』鉢形城歴史館 2019 年、井上隆明『江戸諸藩要覧』東洋書院 1982 年

武田信玄（甲斐）からのあいつぐ攻撃も受けている。

A グループ 5 城のほか、周辺には多くの支城、砦が存在した。これらは連担した軍事拠点であり、広域での攻守を展開するうえで重要な役割を担った。山城や平山城はときにゲリラ戦の最前線にもなりえたはずである。

埼玉県の歴史を考えるうえでは、前述のとおり 1590（天正 18）年秀吉の小田原攻めによってこのエリアの城の多くが廃城となり、烈しい戦乱の歴史を終えてながい休息期にはいることは象徴的である。しかし、結果的に、その後開発の手が伸びなかったがゆえに、軍事拠点型は周辺の歴史的資産とともに比較的良好な保存状態のままいまに残ることとなった。

(2) B グループ（文治拠点型）の特色

B グループは、1603（慶長 8）年、徳川家康の江戸入り以降、江戸時代を通じて文治拠点として再興、存続した城址である。

川越城⑥は、古くは太田氏の築城（長禄年間）とされるが、その後、徳川時代には江戸の北の守りとして再整備された。1590 年秀吉による小田原征伐の際に無血開城した川越城は、江戸時代には川越藩の藩庁が置かれ、幕府の重臣や譜代大名が藩主に任命された。譜代家臣の酒井重忠が 1 万石で入城して以降、城主は酒井氏、堀田氏、大河内松平氏、柳沢氏、秋元氏、越前松平氏、松井松平氏とつづき明治維新までつづく。石高は時代によって異なるが最大 15～17 万石と言われる。明治維新後 1870（明治 3）年頃から同城は解体された。今日、かつての城域は市街地になっているため、城の遺構や縄張りを示す痕跡はほとんど失われているが、本丸跡には 1848（嘉永 1）年に建設された本丸御殿の一部が現存している。

忍城⑦については、江戸時代に徳川家康四男の松平忠吉が入城し、これ以降、明治の廃藩置県まで文治拠点として忍藩の藩庁がおかれた。江戸時代は松平氏、阿部氏らの居城となり石高は最大 10 万石。廃藩置県にともない、同城二の丸に忍県の県庁が一時おかれたが、その後、廃城となった。現在、城跡は忍公園になっており、同城の周囲にあった土塁の一部が残っている。

文治拠点型では、以下の 3 城址についても一時期、同様な機能を果たしていたことが注目されよう。

岩槻城は、徳川家譜代の高力清長が 2 万石で入城。以後、青山氏、阿部氏、板倉氏、戸田氏、松平氏、小笠原氏、永井氏ら譜代大名の文治拠点となったが、江戸時代中期に大岡忠光が入城。以後、大岡氏が代々城主をつとめ、廃藩置県後に廃城となった。現在、城跡は岩槻城址公園になっており、堀跡や大構、城門などの遺構が残っている。

深谷城は、江戸時代に松平康直が 1 万石で入城。その後、松平忠輝、松平忠重が文治拠点としたのち、1622（元和 8）年には酒井忠勝が同じく 1 万石で入封したが、1624（寛永 1）年に忍藩に移封になったことから廃城となった。現在、かつての城域が市街地になっているため、遺構はほとんど残っていないが、城跡の一角が城址公園となっている。

騎西城は、江戸時代に松平康重が 2 万石で入城し、騎西藩という文治拠点とした。その後、大久保忠常（小田原城主の大久保忠隣の子）が城主となったが、1632（寛永 9）年に大久保氏の美濃国加納転封に伴い、天領（幕府直轄領）となったことから、同城は廃城となった。現在はかつての本丸周辺まで宅地化が進み、土塁や空堀の一部が残っているのみである。

2. 2軸の結節点としての川越

A グループの軍事拠点については、廃城とともに、その城主たる武蔵国の豪族たちも歴史の舞台から淘汰されていった。地元の豪族、秩父氏や武蔵七党などの動向をみると、内部抗争の激化、節度なき集散離合を繰り返し、結果的にその過程で勢力を失い 15～17 世紀にかけて、勝者なく雲散霧消していく過程をたどっているように見える³。

一方、江戸時代の武蔵国は幕府を補弼する文治拠点として栄え、松平信綱（知恵伊豆）など徳川譜代の高官が統治にあたることになる。そして、軍事拠点型 A グループと、文治拠点型 B グループの歴史的結節点となったのが川越（藩）であった。

川越については、天海（1536?～1643 年、慈眼大師）に多少ともふれておかねばならない（その業績については『川越の歴史 市制 60 周年記念』川越市 1982 年に詳しい）⁴。

天海は、徳川家康・秀忠・家光の 3 代の政権で活躍した天台宗の僧侶である。天海は、江戸城の遺構がいまに残る喜多院の住職であった。喜多院の山号は、当初、星野山であったが、家康が喜多院を再興するように天海に命じ、「東の比叡山」の意味から東叡山という山号を与えられた。その後、天海の発案で、江戸城の守護祈禱所として 1625（寛永 2）年、上野に寛永寺が創建され、東叡山の山号は寛永寺に移り、喜多院は星野山に戻るようになるが、このように、喜多院と寛永寺は不即不離の関係にあった。喜多院は、1638（寛永 15）年、川越大火により山門と経蔵以外の伽藍を全て焼失するが、翌年、徳川家光の命で、江戸城紅葉山御殿の一部を移築した。これが今に残る客殿、書院、庫裏であり、これらを運ぶために新河岸川の舟運が開かれた。幕閣老中にあった堀田正盛は、川越藩主として喜多院や仙波東照宮再建の奉行を命ぜられ天海を助けた。

さらに、4 代将軍・徳川家綱は 200 石を加増し、喜多院は 750 石・寺域 4 万 8 千坪の大寺となり、徳川家に厚く保護され隆盛した。徳川幕府草創期において、天海が重きをなしていたことから、川越は長くその恩恵に浴したと言えよう⁵。

³ 『秩父氏の歴史（第 2 版）』埼玉県立嵐山史跡の博物館 2020 年

⁴ 童門冬二『江戸の都市計画』文藝春秋 1999 年、『川越の歴史 市制 60 周年記念』川越市 1982 年、圭室文雄編『天海・崇伝 日本の名僧 15 政界の導者』吉川弘文館 2004 年

江戸から日光の男体山を眺めると、真北に位置し真上に北極星が輝くという。北極星を中心に無数の星がめぐるため、北極星は宇宙を支配すると信じられていた。ここに神として「東照大権現」家康を奉ったのが、自身もここに眠る天海である。日光東照宮と江戸を結ぶ「北辰の道」は家康の遺言に基づき江戸守護の風水ラインであった。

⁵ 特に川越は「老中の居城」ともいわれ、大老柳沢吉保も一時城主であった。

3. 城址からみた都市・地域連携軸形成の可能性

歴史的に保存、修復された天守閣をもち誰もが知るような大規模な城は、残念ながら埼玉にはない。その一方、小規模ながら、平安時代から江戸時代にかけて築城されたユニークな平城、平山城、丘城、山城など多様な城址が県内に広く分布している。

この特色を活かして、「城址からみた都市・地域連携」を考えると、エリア別に、1.中央エリア（さいたま市とその周辺）、2.日光街道沿い、3.東武東上線沿い、4.狭山丘陵と奥武蔵、5.県北エリア、6.秩父エリアの各エリアで潜在的にはその可能性がある。（図3・表2（後掲））

小稿の2軸については、Aグループの軍事拠点の概ね、東武東上線沿いにあたり、Bグループ



（出典） <https://kyojo.saitamaken-npo.net/search/shichoson.html>

図3 埼玉県のエリアマップ

の文治拠点型は、中央エリアを中心に川越、行田両市に展開しているが、一定の歴史的ストックが存立の基盤であることは言うまでもない。

さて、江戸時代に栄えたBグループの各城は、幕藩体制を支えた重要拠点であったことから、新政府下ではその反動もあって冷遇され、逐次廃城されることになった。文治拠点としての地位は剥奪され、「武蔵三藩」の忍藩（行田市）、川越藩（川越市）、岩槻藩（さいたま市岩槻区）は県庁所在都市にはならなかった。新たに県庁がおかれた浦和は、中山道の宿場町にすぎなかったが、「明治政府の官僚による中央集権的な行政主導によって、東京に近い場所を県庁所在地に選んだ」と言われる⁶。

現在の埼玉県は、1876（明治9）年にほぼ現在の形となるが、明治元年以降、複雑な県域変更をへている。また、県庁所在都市についても、上記3都市のほか大宮や熊谷もその候補に挙げたが、結果的に当初おかれた浦和はかわらず、その後、広域合併されてさいたま市となり岩槻市が編入されたのは2005（平成17）年であった。

以上は、城址を素材としての地域・都市連携軸へのひとつの提示だが、現在、この2軸には多様性からの魅力や観光拠点としての発展可能性がある。Aグループ軸の城址の周辺は、自然と共存した田園都市の趣きがあり、城址とともに古民家などいまだ風情をたたえて残っている。首都圏のなかでも緑を求めて散策できる恰好なレクリエーションの場となっている。

一方、Bグループ軸の城址は、明治以降の急速な市街化のなかで、その姿を著しく変えていったが、いまでも一部は、まちなかに溶け込んで公共施設用地や都市内公園などに形を変

⁶ 松本博之「明治維新150周年～武蔵国から埼玉県誕生へ 第4回遂に埼玉県の誕生」ぶぎんレポート No.225, 2018年10月号

え、市民に身近な都市内緑地空間を提供している。川越、行田、岩槻などの公園エリアは特に注目されよう。

また、観光都市として名高い川越は、河越夜戦など戦乱における歴史的なエピソードがあり、その後、江戸時代からの多くの文化資産を擁し、かつ、近時はまちなみ創成でも全国ブランドとなっている。川越は、以上見てきたとおり、軍事拠点型 A グループの軸と、文治拠点型 B グループの軸の結節点に位置し両軸 V 字の要であることから、ここをゲートウェイとして A、B 両軸にそって歴史観光を行うのも一興だろう。

さらに今後の展開を考えると、A グループの軸上の歴史的ストックは特に磨きがいがあるだろう。かつての軍事拠点は野趣溢れる遺構でもあり、これを順次連担して見ていくことの面白さは格別で、広域観光開発の素材はまだまだ地域に眠っている。各城址の一層の連携強化と公共交通のアクセスが整えば、その魅力をより発信できるのではないかと考える。

おわりに

小稿は、『大学的埼玉ガイド』（ものづくり大学教養教育センター 井坂康志 編 昭和堂 2024 年）所収の拙稿「埼玉の城址」の спин・オフ版としての書き下ろしである。

ここで取り上げた 7 城址については、いずれも現地にも足を運んだ。また、県域をこえて東京都では石神井城址にも行ったが、改めて埼玉県、東京都が一体であった武蔵国に思いをはせた。そうした意味では、東京都ほか周辺をふくめた「武蔵国の城址論」が連携論からも本来論じられるべきかとも思う。

(以上)

表 2 エリア別の城址一覧

	城名	史跡	特徴(城の形態、遺構、現状など)	所在地	7 城
1 中央エリア(さいたま市とその周辺)					
1	蕨城	☆☆	平城 土塁, 堀 (蕨城址公園)	蕨市	
2	赤山城	☆☆	平城 土塁, 堀	川口市	
3	伊奈氏陣屋	★★	陣屋 土塁, 堀	伊奈町	
4	寿能城	☆☆	平城 土塁, 空堀	さいたま市大宮区	
5	代山城		平山城 隣接してさいたま聖地霊園	さいたま市緑区	
6	中釘陣屋		陣屋 なし	さいたま市西区	
7	真鳥山城		平城 なし(日向集会所)	さいたま市桜区	
8	三ツ木城	☆	平山城 土塁, 郭, 堀(公園)	桶川市	
9	石戸城	☆	平山城 土塁	北本市	
10	堀ノ内館(石戸)		平城 土塁, 堀	北本市	
11	西袋陣屋		陣屋 なし(西袋陣屋公園)	八潮市	
2 日光街道に沿って					
12	岩槻城	★★	平城 門, 土塁, 郭, 堀	さいたま市岩槻区	
13	足利政氏館	★★	居館 土塁, 堀(甘棠院)	久喜市	
14	粟原城		平城 なし(鷲宮神社)	久喜市	
15	下栢間陣屋		陣屋 なし(栢間小学校)	久喜市	
16	清久氏館		居館 なし(常德院)	久喜市	
17	菖蒲城		平城 なし	久喜市	
3 東武東上線に沿って					
18	川越城	★★	平城 御殿, 土塁, 郭, 堀	川越市	⑥
19	河越氏館	★★★	居館 土塁, 堀	川越市	
20	常楽寺城		居館 常楽寺は河越氏館史跡公園の一角に所在	川越市	

21	大堀山城	★★	平城 土塁, 郭, 堀城(神明社)	川越市	
22	難波田城	☆☆	平城 土塁, 郭, 堀(難波田城公園)	富士見市	
23	柏の城		平城 なし(志木市立第三小学校)	志木市	
24	岡 城		丘城 土塁, 郭, 堀	朝霞市	
25	浅羽城		平城 なし(城址公園)	坂戸市	
26	田波目城	☆	山城 土塁, 堀	坂戸市	
27	松山城	★★★	丘城 土塁, 郭, 堀, 井戸	吉見町	⑤
28	大串次郎館		居館 堀	吉見町	
29	美尾屋十郎広徳館		居館 なし	川島町	
30	青鳥城※	★★	平城 土塁, 郭, 堀	東松山市	
31	足利基氏館	★	居館 土塁, 堀	東松山市	
32	松山陣屋	★	陣屋 なし(東松山市役所)	東松山市	
33	野本館		居館 土塁, 堀(無量寿寺)	東松山市	
34	小代館		居館 土塁, 堀(青蓮寺)	東松山市	
35	高坂館	☆	居館 (現在は高済寺)	東松山市	
36	毛呂城		丘城 土塁, 堀(長栄寺)	毛呂山町	
37	龍谷城		山城 郭, 堀	毛呂山町	
38	大類氏館		平城 土塁	毛呂山町	
39	山田城※	☆	平山城 曲輪, 土塁, 横堀, 土橋	滑川町	
40	三門館		丘城 土塁, 堀	滑川町	
41	泉福寺館		丘城 堀	滑川町	
42	菅谷館	★★★	平城 土塁, 郭, 堀	嵐山町	②
43	杉山城	★★★	丘城 土塁, 郭, 堀, 井戸	嵐山町	③
44	大蔵館	★★	平城 土塁, 堀(大蔵神社)	嵐山町	
45	小倉城	★★★	山城 石垣, 土塁, 郭, 堀	ときがわ町	④
46	大築城		山城 土塁, 郭, 堀城	ときがわ町	
47	中 城※		平山城 土塁, 堀	小川町	
48	高見城(四ツ山)※	★★	山城 土塁, 郭, 堀	小川町	
49	腰越城※	★★	山城 石垣, 土塁, 郭, 堀	小川町	
50	青山城※	☆	山城 石垣, 土塁, 郭, 堀	小川町	
51	奈良梨陣屋	★	陣屋 土塁, 堀(八和田神社)	小川町	
4 狭山丘陵と奥武蔵					
52	忍 城	★★	平城 土塁, 郭, 堀	行田市	⑦
53	須賀城		平城 なし(須加小学校・長光寺)	行田市	
54	羽生城	☆	平城 なし(古城天満宮)	羽生市	
55	滝の城	★★	平山城 土塁, 郭, 堀	所沢市	
56	山口城	☆☆	平山城 土塁, 堀	所沢市	
57	根古屋城	★★	丘城 土塁, 堀	所沢市	
58	北秋津城		居館 土塁のL字形と薬研堀	所沢市	
59	柏原城山	★	崖端城 土塁, 郭, 堀	狭山市	
60	大河原城		山城 郭, 堀	飯能市	
61	中山家範館		居館 堀	飯能市	
62	源経基館	★★	平城 土塁, 郭, 堀	鴻巣市	
63	騎西城		平城 土塁 再建槽あり	加須市	
64	花崎城	★	平城 市指定史跡遺	加須市	
65	多賀谷氏館		居館 なし(大福寺)	加須市	
5 県北エリア					
66	鉢形城	★★★	平山城 石垣, 土塁, 郭, 堀	寄居町	①
67	花園城	☆	山城 石垣, 土塁, 郭, 堀	寄居町	
68	花園御岳城		山城 土塁, 郭, 堀	寄居町	
69	要害山城		山城 郭, 堀	寄居町	
70	御嶽城	★	山城 石垣, 郭, 堀	神川町	
71	猪俣城		山城 土塁, 郭, 堀	美里町	
72	雉岡城	★★	平城 曲輪, 土塁, 堀	本庄市	
73	本庄城		平城 城下公園	本庄市	
74	五十子陣		平山城	本庄市	
75	栗崎館		居館 外堀	本庄市	
76	本田館	☆	居館 堀, 土塁	本庄市	
77	深谷城	☆☆	平城 堀	深谷市	
78	人見館	★★	平城 土塁, 堀	深谷市	
79	東方城	☆	平城 土塁, 堀	深谷市	
80	岡部城址		陣屋 土塁	深谷市	

81	庁鼻和城跡	☆	居館 庁鼻和上杉氏の居城	深谷市	
82	別府城	★★	平城 土塁, 郭, 堀(東別府神社)	熊谷市	
83	斎藤別当実盛館		居館 なし(大我井神社)	熊谷市	
84	成田氏館		居館 なし	熊谷市	
6 秩父エリア					
85	天神山城		山城 石垣, 土塁, 郭, 堀	長瀨町	
86	仲山城		山城 郭, 堀	長瀨町	
87	根古屋城※	★★	山城 土塁, 郭, 堀	横瀬町	
88	千馬山城※	★★	山城 石垣, 土塁, 郭, 堀	皆野町	
89	浦山城		山城 郭, 堀	皆野町	
90	阿佐美氏館		居館 石垣	皆野町	
91	塩沢城※	☆	山城 土塁, 郭, 堀	小鹿野町	
92	日尾城	☆	山城 土塁, 郭, 堀	小鹿野町	
93	高取山城	☆	山城 土塁, 郭, 堀	越生町	
94	秩父氏館	☆☆	居館 なし(吉田小学校)	秩父市	
95	熊倉城※	☆	山城 土塁, 郭, 堀	秩父市	
96	贄川城		山城 郭, 堀	秩父市	
97	諏訪城	☆	崖端城 土塁, 堀(神社)	秩父市	
98	龍ヶ谷城	☆	山城 土塁, 郭, 堀	秩父市	
99	下原城		崖端城 土塁, 郭, 堀	秩父市	
100	永田城	☆	崖端城 土塁, 郭	秩父市	

(摘要) 各種資料から作成。史跡は、国指定★★★、県指定★★、県認定★、市町村指定☆を示す。

(参考文献)

- ・大野信長, 有沢重雄, 加唐亜紀(編)『日本の城 1055 都道府県別 城データ&地図完全網羅』2022年 西東社
- ・梅沢太久夫『埼玉の城:127 城の歴史と縄張』2018年 まつやま書房
- ・峰岸純夫・齋藤慎一(編)『関東の名城を歩く 南関東編:埼玉・千葉・東京・神奈川』2011年 吉川弘文館
- ・西野博道(編)『埼玉の城址めぐり』2010年, 『続埼玉の城址めぐり』2012年 幹書房
- ・西野博道『歴史ロマン・埼玉の城址 30 選』2005年 埼玉新聞社
- ・大多和晃紀『関東百城 新装』1993年 有峰書店新社
- ・南條範夫, 奈良本辰也(監修)『日本の名城・古城事典』1989年 TBSブリタニカ
- ・大類伸『名城名鑑〈下〉』1965年 新人物往来社
- ・埼玉県内の国・県指定等文化財については 埼玉県教育委員会資料などを参照